



落穂会だより

新春号 2012.1

社会福祉法人 落穂会 知的障害児施設 障害者支援施設 知的障害者授産施設 知的障害者通所授産施設
 あさひが丘学園 あさひが丘 旭福祉センター 第二旭福祉センター
 鹿児島市皆与志町2503番地 (Tel 238-4821) (Tel 238-4821) (Tel 244-3551) (Tel 244-3551)
<http://www.asahigaokagakuen.jp/> <http://www2.synapse.ne.jp/asahi-center/>



FUREAI BAZAR

未来へのひとしづく

「津波で父と母が死亡し、七十三歳の祖父が中二の長女、中一の二女、小五の長男を育てている」「津波で父、母、二女、祖父が死亡し、五人家族のうち小二の長女だけが遺され、中国地方に住む母方の祖母が長女の面倒をみている」これは、あしなが育英会の特別一時金申請書に書かれていた記述の一部である。東日本大震災で父親、母親のいづれかを亡くした子どもの数は二千人以上、このうち、両親ともに失った子どもは二百人以上いるといわれている。

大震災でたくさんの人たちが亡くなり、傷つき、家・家族・財産・職場などたくさんを失った。被災地から遠く離れた場所にいる私たちに何ができるのか考えているとき、あしなが育英会の活動を知った。あしなが育英会は、災害や病気、自死等で親を亡くした子どもたちに奨学金の貸付や給付を行ったり、子どもたちの心のケアに取り組んでいる団体である。今回の大震災でも親を亡くした子どもたちに特別一時金や奨学金の給付を行っている。また、阪神・淡路大震災後に建設された「神戸レインポーハウス」を運営し、震災遺児の心のケアに取り組んできた実績から、「東北レインポーハウス」の建設を計画し、寄付金を募っている。

私たちが、大震災の記憶を忘れることのないように、「息の長い、そして未来に向けた支援を」ということで、年一回、七月と十二月に職員に義援金を募り、あしなが育英会に送金している。私たちにできることは、大海に一滴のしずくを落とすぐらいの本当に小さなことかもしれない。でも、私たちがこの大震災を忘れないために、そして未来を生きていく子どもたちの人生にほんの僅かでも役立てばと思う、この活動への協力を続けていきたいと考えている。

あさひが丘学園 園長
水 流 純 大

成人おめでとう 大空にはばたけ

◆あさひが丘(通所部)

白石 智大さん



二十歳になりました。わがまま言わず皆と仲良くがんばるのでよろしくお願いします。

◆旭福祉センター

中原 温子さん



はたちになったので、せんとくやさらあらい、しごとをたくさんがんばりたい。

◆あさひが丘学園

川野 亮介さん



あさひが丘学園で、しっかり自分自身が成長してリーダーシップをとりたいです。

◆あさひが丘学園

島内 歩夢さん



お友だちと、仲よく過ごしたいです。学校もがんばります。

◆あさひが丘学園

橋口 ひとみさん



わたしは、うたをうたうことが大好きです。お友だちと、たくさんあそびたいです。



玉島 俊和さん
テレビが大好きです。でも学園のお友だちや先生方と関わりをもち、楽しく過ごしてほしいです。

◆旭福祉センター

吉住 昭宏さん



ぼくは、センターでげんきにしごとをがんばります。おともだちもたくさんつくりたいです。

◆旭福祉センター

金山 哲也さん



ぼくは、やさいのふくろぐめのしごとをがんばりたいです。

◆あさひが丘

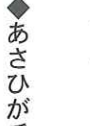
松元 芳文さん (自宅へ)



退所者

◆あさひが丘学園

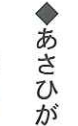
小川 ちひろさん (自宅へ)



吉住 昭宏さん (旭福祉センターへ)

◆あさひが丘

三浦 由紀子 看護師



ナイチンゲールのように、いつも優しく思いやりを持って、日々頑張りたいと思います。

◆旭福祉センター

生見 暢生 支援員



みんなと協力し合って、旭福祉センターの役に立つよう努力したいと思います。

◆あさひが丘

十二月二十七日(火)、鹿児島市西伊敷のケイ産業(有)の皆様が、あさひが丘学園の機能訓練棟の屋根塗装にいらしてくださいました。屋根の上など日頃の届かない場所をきれいに掃除していただき、屋根もきれいに塗り替えられました。新しい年を迎えることができました。ありがとうございます。



ふれあい

十二月二十七日(火)、鹿児島市西伊敷のケイ産業(有)の皆様が、あさひが丘学園の機能訓練棟の屋根塗装にいらしてくださいました。屋根の上など日頃の届かない場所をきれいに掃除していただき、屋根もきれいに塗り替えられました。新しい年を迎えることができました。ありがとうございます。

編集後記

昨年、一年間を象徴する文字は「絆」という文字でした。

昨年は、天災や原発事故など日本も暗いニュースが多く一人ひとりが家族や仲間などをあらためて強く意識したことだと思います。今年は幸せを呼びよぶような字が選ばれる穏やかな年であってほしいと心から願っています。

(U)

ベーカリー 楓 オススメ商品



「牛肉の赤ワイン煮」1500円

今回は牛肉の赤ワイン煮を紹介いたします。国産牛を赤ワインでじっくり煮込んでいますので、お肉の柔らかさと旨味がたまりなく美味しいです。他にも大根や里芋といった根菜類もふんだんに使っています。どかシエフが丹精込めて作る料理、ぜひお友達や大切な人と食べてみてはいかがでしょうか。

障害者制度改革の動向⑥

あさひが丘学園 園長 水流純 大

前号に引き続き、改正児童福祉法の概要について述べる。今回の改正では、入所施設においても大幅な改正が行われた。

第一に、入所施設も通所施設と同様障害種別の一元化が図られる。現行法で障害種別ごとに規定されている知的障害児施設、第二種自閉症児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児療護施設は、福祉型障害児入所施設として一元化される。しかしながら、現行法における各施設の人員基準、設備基準等にはばらつきがあることから、これらの施設が円滑に移行できるようにするため、各障害別に設定された現行の人員基準等を踏襲し、これまで通り主たる対象の障害を中心に受け入れる措置が講じられる。また、これまで配置されていなかった障害者自立支援法のサービス管理責任者に相当する「児童発達支援管理責任者」が配置されることになったが、実務経験、研修受講の関係からすぐに配置できない施設があ

ることを考慮し、三年間の経過措置が設けられる。なお、第一種自閉症児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設は医療型障害児入所施設として一元化される。

第二に、在所期間の延長規定の廃止である。法改正により、十八歳以上の入所者は原則として障害者自立支援法で対応することとなり、「福祉を損なうおそれがあると認められた場合」の十八歳から二十歳までの措置延長や契約期間の延長規定は残されたものの、現行法にある重度障害者の二十歳以上の延長規定は削除された。この措置により、障害児入所施設は①障害児施設として維持、②障害者施設に転換、③障害者施設と障害児施設の併設の三つの中から方向性を選択し、事業者指定の有効期間（最長平成三十年三月末）までの間に移行しなければならぬ。

ただし、①を選択した施設が法施行後直ちにすべての十八歳以上の入所者を障害者施設やグループホーム

等に移行させることができない場合や、②を選択した施設が直ちに障害福祉サービスの体制・内容を満たすことができない場合、③を選択した施設が直ちに児者を明確に区分することができない場合などを考慮し、十八歳以上の入所者がすぐに施設を退所しなくてもよいように一定の経過措置が設けられることになっている。経過措置期間は前述の事業者指定の有効期間と同一である。

この経過措置については、例えば①十八歳以上の措置入所者は二十歳までの延長規定が適用されると考えようか。②当該入所者が二十歳に達した以降も経過措置期間中の入所を継続する場合は、事務が市町村に移管され、契約入所となるのか。本人に判断能力がない等の理由で契約ができない場合、「市町村のやむを得ない場合の措置」が適用されるのか。③十八歳以上の契約入所者は原則として障害者自立支援法で対応するとされているが、一方で、児童福祉法

二十四条の二十四において「引き続き指定入所支援を受けなければ福祉を損なうおそれがあると認められる場合に二十歳まで延長できる」とされているが、「福祉を損なうおそれ」とはどのような場合を指すのか、などまだ明らかになっていないことも多く、今後、政省令や通知を待たなければならぬ。

平成二十三年十月一日現在の県内の知的障害児施設は八か所で定員が二百九十名、現員二百五十八名で、十八歳未満は百二十九名（五十％）である。現在員の半数は十八歳以上の入所者が占めていることから、障害者施設への転換や児者併設施設に移行する施設が多くなるのではないかとと思われるが、障害児入所施設のニーズは今後も少なからずあると思われることから県全体の定員数をどうするかについては県と施設側との協議が必要になってくると思われる。

なお、平成二十三年十二月十五日現在の当園の状況は定員四十名、現員四十名、十八歳未満二十三名（五七・五％）となっており、①②③のどの方向性をめざすかを今後協議し、本人・保護者に対して十分な説明をしながら移行を進めていきたいと考えている。

あさひが丘学園

・宿泊旅行（熊本方面）

十月二十八日から一泊二日で熊本方面の旅行に出かけてきました。一日目は、サントリービル工場見学、熊本植物園、宿泊は、菊池温泉に泊まり温泉を楽しみました。二日目は、カドリードミニオンでパン君・ジェームズショーをみました。天気も大きく崩れることはなく楽しい旅行となりました。

・保護者会ボランティア活動

十月三十日（日）、今年二回目となるあさひが丘学園保護者会によるボランティア活動が企画実施されました。十六家族の保護者家族の方々と共に浴槽掃除と裁縫作業に取り組みました。お忙しい中での、ボランティア作業ありがとうございました。

・河頭地区民生委員・児童委員協議会奉仕作業

十一月五日（土）河頭地区民生委員 児童委員協議会二十二名の方が奉仕作業にきてくださいました。正面花壇の作業を取り組んでもらいました。あつという間に耕起までお任せ見事な花壇に生まれ変わりました。お忙しい中での、ボランティア作業ありがとうございました。

・みかん狩り・保護者総会
十一月二十日（日）、前日からの

天候不良が心配でしたが天気もなんとかも楽しみにしていたみかん狩りが実施できました。みかんの実りは少ないですが味は甘く今年もみかん狩りを楽しむことができました。午後からは、保護者総会が行われました。

・みかん狩り四十五家族五十五名、保護者会には五十八家族九十二名の参加がありました。

・保護者会ボランティア活動2

十二月六日（火）、保護者会より学園のクリスマスツリーの飾り付けと窓への装飾の企画が実施されました。二本の木の木には、見事な飾り付けが完成。また、ホールの窓にはクリスマス装飾が完成し利用者や職員の間を彩りました。

・高木バンドクリスマスコンサート

十二月十日（土）、六回目となる高木バンドのクリスマスコンサートがありました。今年も利用者の方々と楽しめる内容をと幅広い構成で楽しませていただきました。

・YPOコンサート招待

十二月二十三日（金）今年もよしだポップスオーケストラのチャリティーコンサートに招待していただきました。歌って踊って笑顔になりました。楽しいコンサートでした。今期もたくさんの方に協力を頂きました。ありがとうございました。

旭福祉センター

・ふれあいバザー

十一月二十七日（日）に第四十回ふれあいバザーを開催しました。会場は旭福祉センターとベーカーリー・カフェNODOKAの二箇所に分かれて販売をしました。バザーでは、焼きそば・焼き鳥・おでん・みかん等、バザー限定目玉商品としてカフェNODOKAのシェフ特製黒カレーも販売しました。オープンと同時にたくさんのお客様が入り、またたく間に会場はお客様でうめつくされました。花苗や野菜をいっぱい買われたお客様の荷物を運ぶため、運搬係の利用者が一輪車で駐車場まで運びました。販売をしている利用者は手を口の両端にあて、遠くのお客様まで声が届くよう工夫をしたり、「おいしい焼き鳥はいかがですか？」と話しかけたりと生き生きとした利用者を見ることができました。

今回も、ボランティア・ご家族の方など、たくさんの方々に協力頂きました。ありがとうございました。

・福祉ふれあいフェスタ

十一月十三日（日）、鹿児島アリーナにて「福祉ふれあいフェスタ」が開催されました。センターからは菓子、みかん、陶芸、花苗、味噌を販売しました。前日まで雨だったため、当日の天気心配されましたが、気持ちのいい秋晴れで、販売する利用

者の表情もとても穏やかでした。昨年までは屋内での販売でしたが、今回は屋外での販売で、花やみかんは太陽の光でとても綺麗に見えました。そのためか、みかん・花苗は完売、そのほかもたくさんのお客様に買っていたいただきました。販売していた利用者の「いらつしやいませ」という声も元気良く、いきいきと販売を頑張っていました。

・買い物実習

十一月十四日・十五日の二日に分けて買い物実習がありました。山形屋やヤマダ電機などに行き、以前から購入するものを決めていた利用者は店に入ると目を輝かせて商品を探していました。また、洋服を鏡で合わせてみたり、商品を手にとつて色や形などで迷う姿も見られました。

夕食はレストランで食べ、クリスマスのイルミネーションを見て「きれいだね」とうっとり。もちろん食事もお腹一杯食べていたようです。帰りの車内では「来年は何を買おうかな」と笑いながら話していました。

・利用者合同忘年会

十二月二十二日に利用者合同忘年会を昨年に続き、城山観光ホテルで行いました。利用者はホテルの料理をおいしそうに食べ、カラオケでは職員と一緒に楽しそうに歌っていました。一年間の作業の疲れをお互いにねぎらい、来年に向けて新たな気持ちになれた事と思えます。



→楽しい演奏をありがとうございました

高木バンド コンサート



みかん狩り

←美味しいみかんがとれました



↑今年は屋外での販売でした。

↑お菓子やみかんなど大盛況!

旭福祉センター

アリーナバザー

↓花苗も人気です。



買物実習

旭福祉センター

山形屋でいい買物ができたかな?



忘年会

あさひが丘学園



←きれいな花壇が完成しました

河頭地区民生委員・ 児童委員協議会奉仕作業

すなっふ スナック



盛り上がった運動会

あさひが丘学園運動会



みんなでダンス「一番音頭」



美味しい料理で疲れを癒します

宿泊旅行 (熊本方面)

あさひが丘学園



カドリードミニオン



裁縫作業

保護者会 ボランティア活動



手際良く装飾がすすみました↓

あさひが丘学園



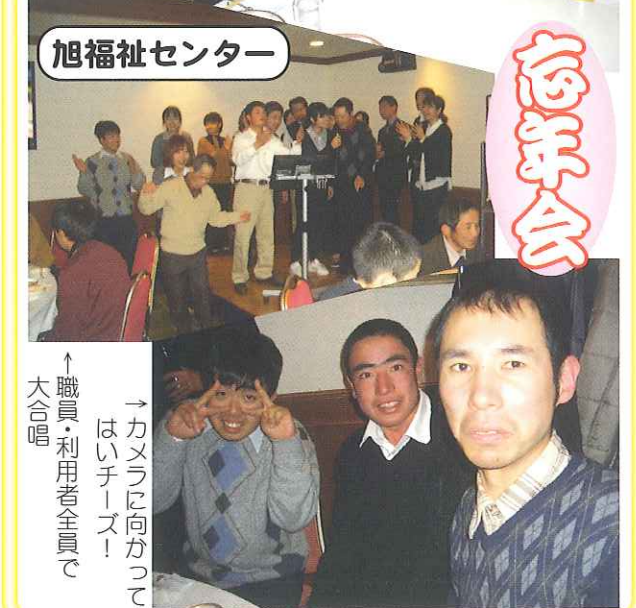
浴室清掃



→今年も一年お疲れ様でした

旭福祉センター

忘年会



→カメラに向かってはいチーズ!
↑職員・利用者全員で大合唱

「初めての大阪旅行」



あさひが丘学園 利用者 養父 嘉信

九月十三日から一四日に大阪旅行に行ってきました。僕は、初めて新幹線に乗りました。新幹線はスピードが速く、あっという間に大阪に着きました。

一日目は、大阪の街、道頓堀に行きました。かに道楽やカールおじさんの看板は近くで見ると、とても大きかったです。夜ごはんは本場のお好み焼き、たこ焼きを食べました。ほっぺが落ちるほどおいしかったです。たくさん食べる事が出来て、嬉しかったです。



たので少し怖かったです。パレードもたくさん見ました。いろんなキャラクターがたくさん見ました。

二日目は一日中ユニバーサルスタジオジャパンで過ごしました。スパイダーマンの乗り物は3Dの映像だったので

んいたのでいっぱい写真を撮りました。自分へのお土産も買いました。初めての大阪旅行はとても楽しくて、また行きたいと思いました。

「ハタチのおもい」



旭福祉センター 保護者 中原 幸子

今年二十歳になる娘。成人式では着物を着てほしくて、早くより準備をしていたにもかかわらず「えー、着物きかない。洋服が良い」といって、なかなか着ると言ってくれませんでした。あらゆる手段をつかって納得させようとしたのですが、なかなか手強くなりあきらめかけた時、「着物きるよ」と言ってくれました。両手を上げて喜び、美容室と写真館の手配を済ませました。一生に一度の晴れ舞台、今から喜んでいきます。

「二十歳になつたらビールを飲みたい。しずるに会いに行きたい」と言っている娘。ビールを飲んでどんな味がするのだろうか。しずるに逢つてどう思うのだろうか。世界が広がるのでしょうか？

障害を持つて生まれてきて、みんなが体験する事の半分も...いえ、それ以下かも。いろんな物に触れ、いろんな事にチャレンジさせてたくて

・ありがとうございます。最近では、バザーの準備なども忙しかったのではないですか。



利／「お血やコップ、地蔵や薬かけをしました。」「値札（貼り）もがんばりました。」
支／「利用者の皆さんが出来る事をお手伝いしながら、少しずつ準備をしてきました。」

・よく園内を歩いています。..
利／「歩行に行ったりする。」「トンポリンはたのしい。あと買い物にも行ったりします。」
支／「室内の活動が多いのですが、体を動かすことが好きな方や運



利／「えーと、粘土でお血なんかをつくっています。粘土砕きや仕上げ、紙ちぎりをしたり、園内歩行、トンポリン、この間はバザー準備もしました。」
支／「日中II科では、粘土創作や和紙製作の他に、運動プログラムや余暇活動など、利用者の皆さんが楽しく過ごせる活動を行っています。」

も限界があります。でもこの子は人間の嫌な部分やきたない部分も知らず、生きてきたんだ。幸せな事です。最近はその思うようになりました。きれいな心のまま成長している！成長させてあげたい！

旭福祉センターにお世話になって、毎日楽しそうに通う姿がたのしく、そして友達もでき笑顔も増えてきています。毎日毎日小さな成長ですが、これからも見守っていきたくと思います。今後ともよろしく願っています。

「料理を通じて」



旭福祉センター 職員 外 蘭 大 一 朗

料理をはじめ、十年が過ぎました。私はホテルの経験はありませんが、洋食のレストラン、居酒屋等、自分なりに様々な経験を積んで来ました。でも、まだまだ足りない自分に気付かされる日々を送っています。よく料理の先輩方達には、「五年で半年前、十年で一人前だ」と言われ修行してきました。最初は、「十年後には一人前になってやろう」と頑張る気持ちで、お客様への接客を覚え、お店で料理の作り方を覚え日々修行しました。

料理長になると、商売の仕方・お金の有り難味・お客様に対しての気持ちの持ち方等、今までに思っていなかった事を感じました。そして他のお店の方々と仲良くなることで自分の為に生かされる話を自分なりに試し、そこで新たな発見と共に成長出来たと思います。

今、「カフェレストランのどか」に勤め、旭センターで採れた野菜を使って新しいメニューの開発やふれあいバザー、利用者との忘年会など、初めは慣れない事の連続でした。

現在勤めて四年目を迎えるようになっています。利用者と一緒に仕事を頑張り、グループホームの方が休みの日に食べに来て、楽しい話をしたり、今まで経験した料理だけの仕事では味わえない事ばかりです。

気付いたことがあります。それは、利用者として仕事を通してふれあう中で「十年目が、スタートなんだ」ということです。自分に足りない事や自分に無いものを持っている利用者との時間を共に過ごす事の楽しさが、自分の刺激になっています。また「のどか」で働いて良かったと思いつつ料理に専念して、頑張っていきたいと思えます。

さんぽみち

で公園に行ったりした。」

支／「余暇活動として園内カラオケをするもあります。また夏に都市農業センターへみんなで行きました。きれいに咲いた花をみながら散歩したりお店ではジュースを買いました。」



・ありがとうございます。最後に、これからどんなことがしたいですか。
利／「絵描きがしたい。誕生会や料理作りもしてみたい。」
支／「まだまだ工夫やアイデアが必要ですが、今後とも皆さんが充実した楽しい時間を過ごせるよう、色々な事が経験できる活動班として、努力していきたいと思えます。」

・たくさんのお話ありがとうございます。十一月にあつたふれあいフェスティバルバザーでは、たくさん作品が売れたようでした。これからもみんな仲良く頑張ってくださいね。ありがとうございます。」

日中II科にスポット



今回は、あさひが丘の日中活動グループ「日中II科」のみなさんにスポットです。
日中II科のみなさんが日頃どんな活動をしているかをインタビューしました。



利／「お血やコップ、地蔵や薬かけをしました。」「値札（貼り）もがんばりました。」
支／「利用者の皆さんが出来る事をお手伝いしながら、少しずつ準備をしてきました。」

・よく園内を歩いています。..
利／「歩行に行ったりする。」「トンポリンはたのしい。あと買い物にも行ったりします。」
支／「室内の活動が多いのですが、体を動かすことが好きな方や運



・楽しい事がたくさんありますね。他に楽しい事はありますか。
利／「カラオケ、お団子食べたり皆

